

平成26年度吉川市市民意識調査報告書

— 概要版 —



吉川市
Yoshikawa City

平成27年3月

吉川市役所はISO9001供給者適合宣言をしています。

市民意識調査の概要

1. 調査の趣旨

この調査は、市政に対する市民ニーズが多様化している中で、市の取り組みについての市民の意向（満足度・重要度）や意識を調査・把握することを目的としています。

また、本市では、ISO9001 供給者適合宣言を行っておりますので、このシステムに基づく要求事項8. 2. 1により、顧客満足度を監視する調査として位置付けています。

この調査の実施に当たり、市内在住の20歳以上の男女1,500人（平成26年9月1日現在）の方にご協力いただきました。

なお、調査項目、調査時期等については次のとおりです。

2. 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) あなたの幸福感
- (3) 吉川市の住み心地
- (4) あなたの現状と認識
- (5) 市の取り組みについての満足度
- (6) 市の取り組みについての重要度
- (7)～(10) 特集
- (11) 行政サービスについて



3. 調査時期

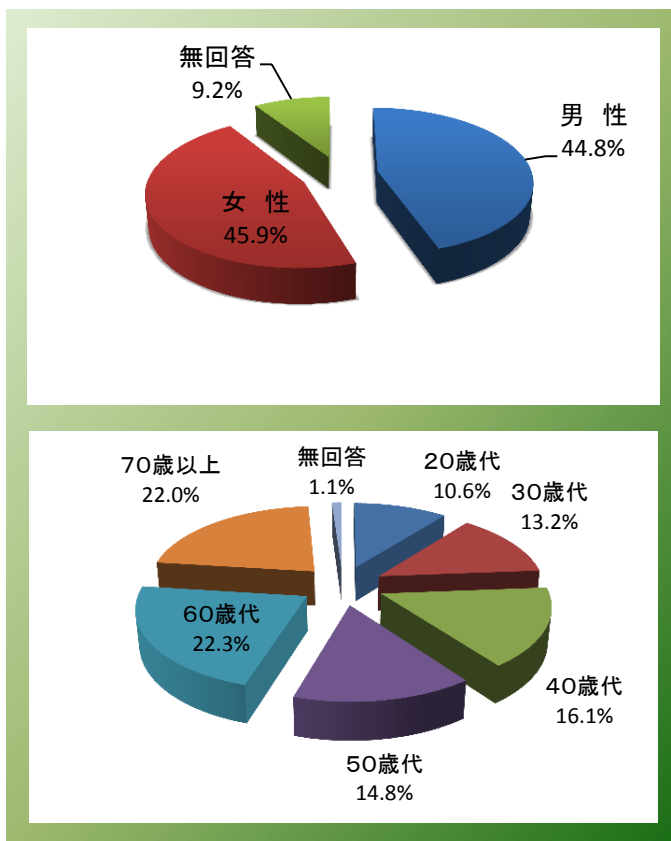
平成26年10月3日（金）から17日（金）まで

4. 調査方法

郵送配布・郵送回収による調査

5. 回収結果

有効回収数（率） 660人（44.0%）



(1つ選択)

区分	実数	割合
男性	296	44.8%
女性	303	45.9%
無回答	61	9.2%
母数	660	100.0%

(1つ選択)

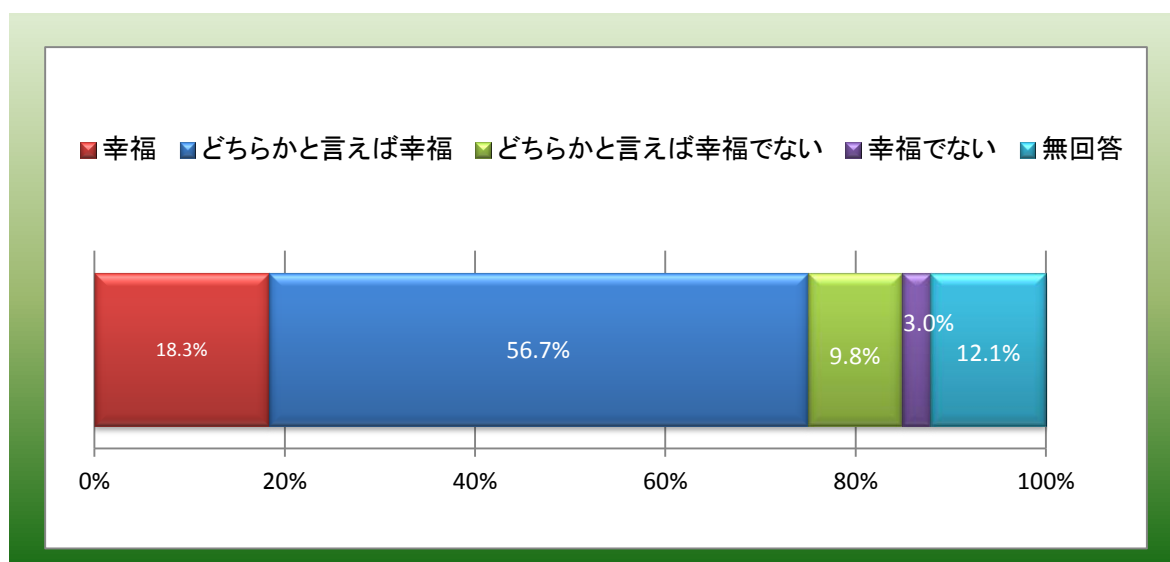
区分	実数	割合
20歳代	70	10.6%
30歳代	87	13.2%
40歳代	106	16.1%
50歳代	98	14.8%
60歳代	147	22.3%
70歳以上	145	22.0%
無回答	7	1.1%
母数	660	100.0%

2. 回答者の幸福感

～ 回答者の約8割が
「幸福・どちらかと言えば幸福」と感じている ～

回答者の主観的な「幸福感」について伺ったところ、「幸福」121人（18.3%）、「どちらかと言えば幸福」374人（56.7%）、「どちらかと言えば幸福でない」65人（9.8%）、「幸福でない」20人（3.0%）と回答しています。

「幸福・どちらかと言えば幸福」は75.0%、「どちらかと言えば幸福でない・幸福でない」は12.8%となっており、回答者約8割が幸福であると感じています。

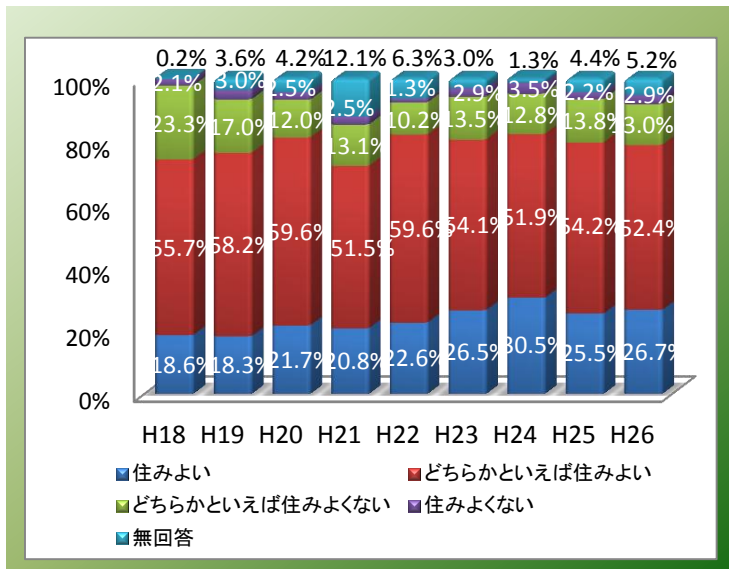


区分	実数	割合
幸福	121	18.3%
どちらかと言えば幸福	374	56.7%
どちらかと言えば幸福でない	65	9.8%
幸福でない	20	3.0%
無回答	80	12.1%
計	660	100.0%



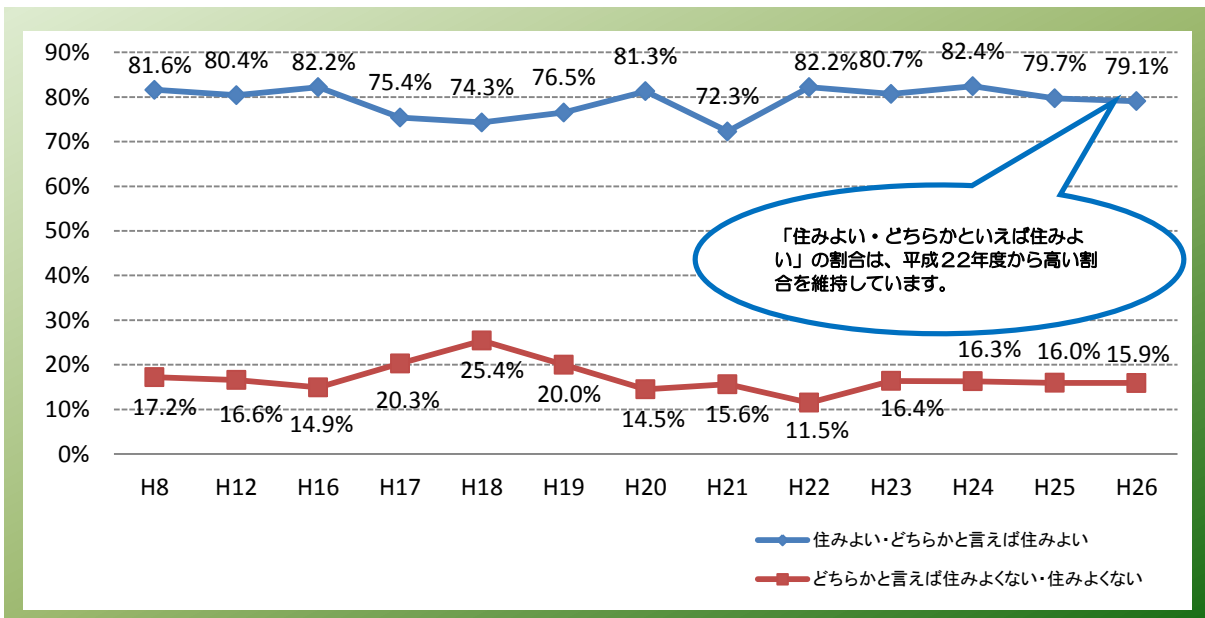
3. 吉川市の住み心地

～ 回答者の約8割が「住みよい・どちらかと言えば住みよい」と感じている ～



吉川市の住み心地を伺ったところ、「住みよい」176人(26.7%)、「どちらかと言えば住みよい」346人(52.4%)、「どちらかと言えば住みよくない」87人(13.0%)、「住みよくない」19人(2.9%)、「無回答」32人(5.2%)となっています。「住みよい・どちらかと言えば住みよい」の合計は、79.1%で回答者の約8割が「住みよい・どちらかと言えば住みよい」と感じています。前年度の調査(79.7%)と比較して0.6ポイント減少しています。「住みよい」を見ると26.7%で、前年度の調査(25.5%)と比較して1.2ポイント増加しております。過去8か年の調査結果を見ると「住みよい・どちらかと言えば住みよい」は約72%から約82%の間の範囲で推移しています。

～ 過去7か年の調査結果を見ると「住みよい・どちらかと言えば住みよい」は約72%から約82%の間の範囲で推移



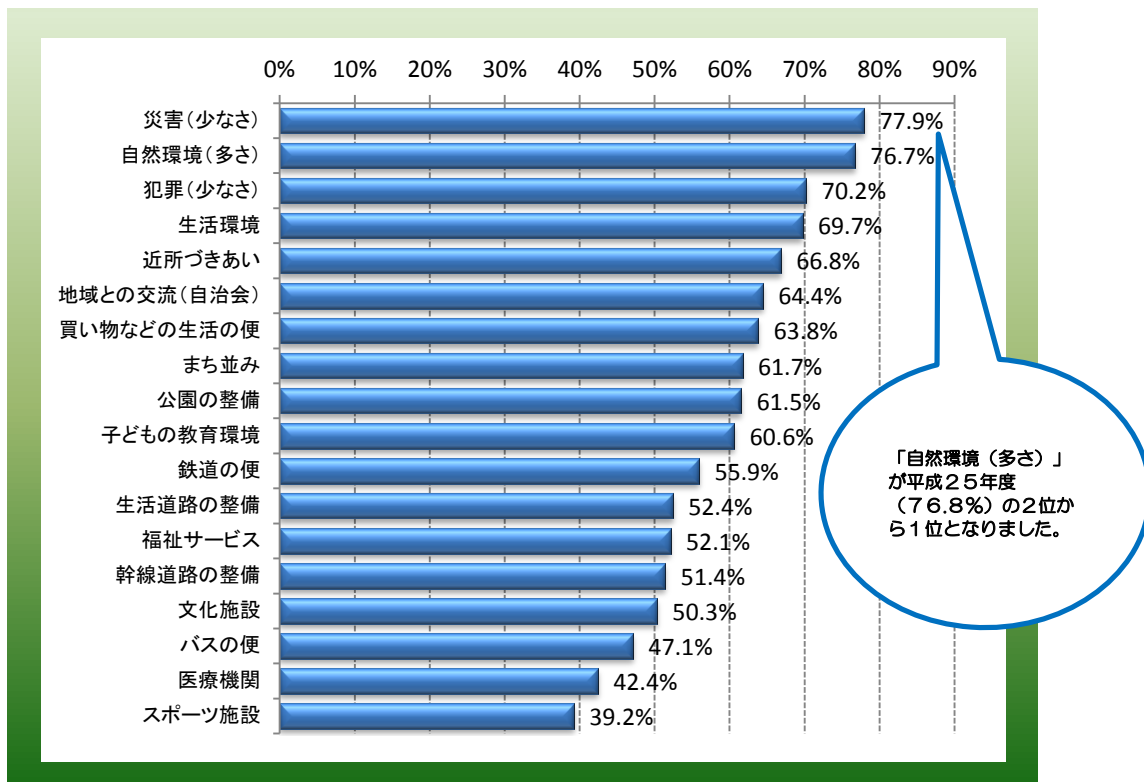
これまで実施した調査の「吉川市の住み心地」について経年変化を見てみると「住みよい・どちらかと言えば住みよい」は、平成21年度(72.3%)に平成20年度(81.3%)と比較して9.0ポイント減少しましたが、平成24年度(82.4%)にはこれまでで最も高い割合まで増加するなど、住み心地は増加傾向にあります。

「どちらかと言えば住みよくない・住みよくない」は、平成18年度(25.4%)を境に減少傾向となり、平成22年度(11.5%)に最も良い水準になりましたが、平成23年度(16.4%)以降、平成24年度(16.3%)、平成25年度(16.0%)、平成26年度(15.9%)と推移しています。



3-2. 吉川市の住み心地を「よい」とする理由

～ 住み心地を「よい」と感じる点として、7割以上の回答者が「災害（少なさ）」、「自然環境（多さ）」をあげている ～



(該当するもの全て選択)

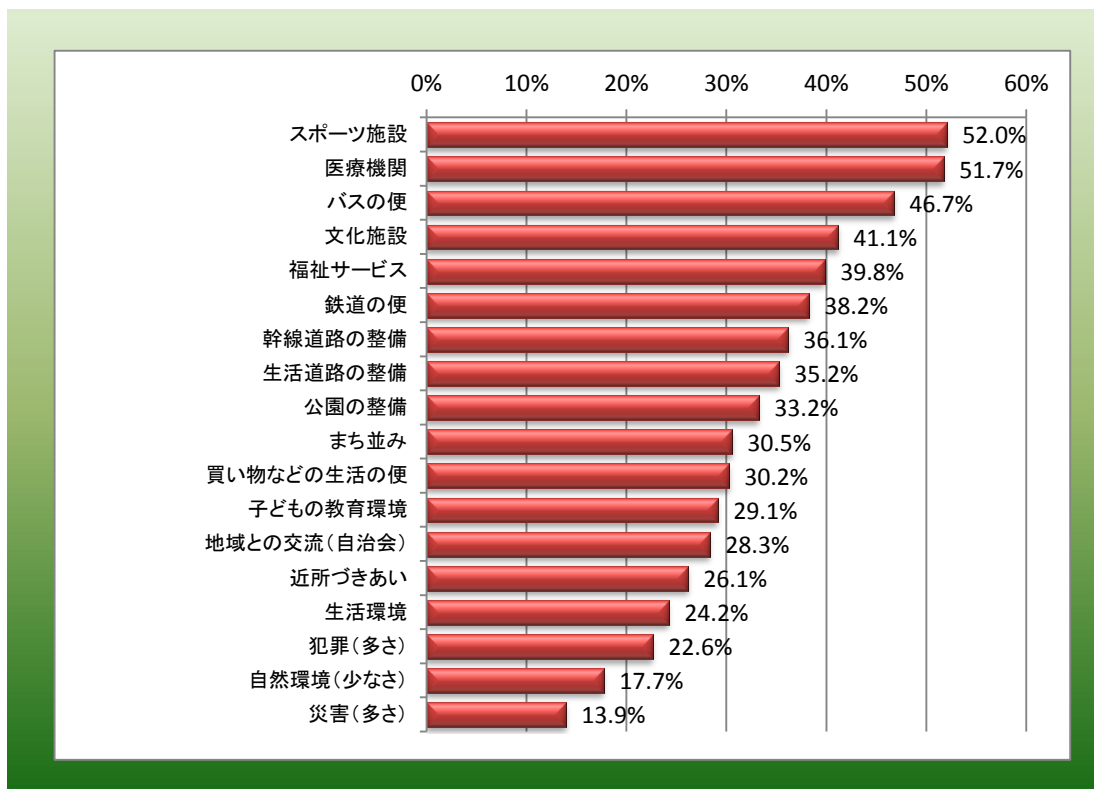
区分	実数	割合
災害(少なさ)	514	77.9%
自然環境(多さ)	506	76.7%
犯罪(少なさ)	463	70.2%
生活環境	460	69.7%
近所づきあい	441	66.8%
地域との交流(自治会)	425	64.4%
買い物などの生活の便	421	63.8%
まち並み	407	61.7%
公園の整備	406	61.5%
子どもの教育環境	400	60.6%
鉄道の便	369	55.9%
生活道路の整備	346	52.4%
福祉サービス	344	52.1%
幹線道路の整備	339	51.4%
文化施設	332	50.3%
バスの便	311	47.1%
医療機関	280	42.4%
スポーツ施設	259	39.2%

吉川市の住み心地を「よい」と感じる理由を伺った結果、「災害（少なさ）」が77.9%で最も多く、2番目「自然環境（多さ）」が76.7%、3番目「犯罪（少なさ）」が70.2%の順番となっており、昨年度調査と同様の順番となりました。平成26年度調査では、「文化施設」が前回調査から8.2ポイント増加し、「鉄道の便」が前回調査から5.0ポイント増加しました。



3-3. 吉川市の住み心地を「わるい」とする理由

～ 住み心地を「わるい」と感じる点として、約5割の回答者が「スポーツ施設の整備」、「医療機関」、「バスの便」をあげている ～



(該当するもの全て選択)

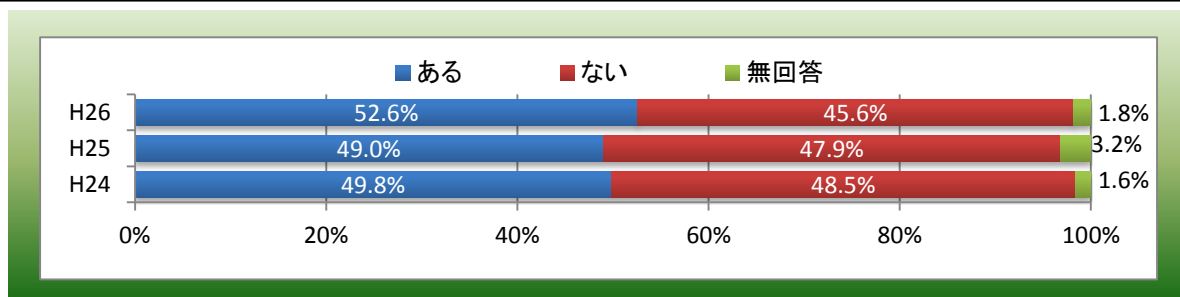
区分	実数	割合
スポーツ施設	343	52.0%
医療機関	341	51.7%
バスの便	308	46.7%
文化施設	271	41.1%
福祉サービス	263	39.8%
鉄道の便	252	38.2%
幹線道路の整備	238	36.1%
生活道路の整備	232	35.2%
公園の整備	219	33.2%
まち並み	201	30.5%
買い物などの生活の便	199	30.2%
子どもの教育環境	192	29.1%
地域との交流(自治会)	187	28.3%
近所づきあい	172	26.1%
生活環境	160	24.2%
犯罪(多さ)	149	22.6%
自然環境(少なさ)	117	17.7%
災害(多さ)	92	13.9%

吉川市の住み心地を「わるい」と感じる理由を伺った結果、「スポーツ施設」が52.0%で最も多く、2番目「医療機関」が51.7%、3番目「バスの便」が46.7%となりました。平成18年度から平成25年度までの7か年度で理由の上位に大きな変更はありませんが、区分ごとの割合の前年度比では、「文化施設」が6.7ポイント、「福祉サービス」が7.1%、「鉄道の便」が9.5ポイント減少しています。



4-1. 自治会、町会活動などの地域活動への参加状況

～ 回答者の約5割が自治会、町会活動などの地域活動に参加している ～



自治会、町会活動などの地域活動に参加したことがあるか伺ったところ、回答者の約5割が「ある」（52.6%）としており、平成25年度から3.6ポイント増加しています。

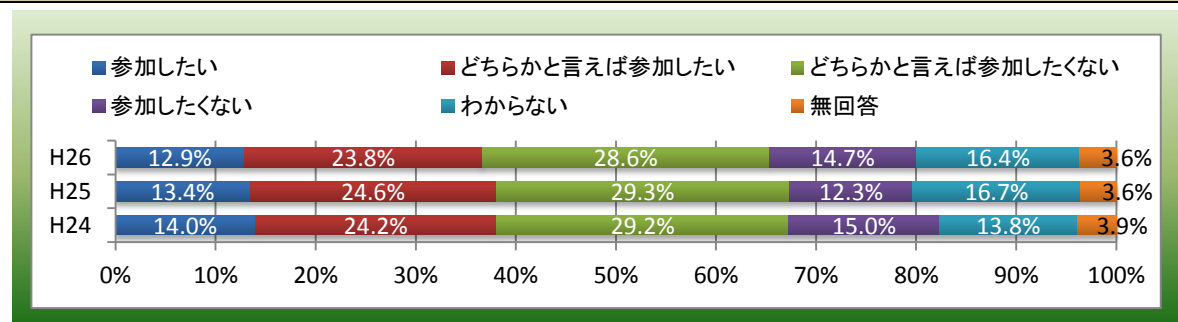
一方、「ない」（45.6%）を選んだ理由は次のとおりでした。

（平成26年度）

区分	実数	割合
仕事や家事などが忙しくて参加する時間がないから	187	31.6%
活動に参加しなくても生活に支障がないから	103	17.4%
どのような活動をしているかわからないから	90	15.2%
活動に興味が無いから	76	12.9%
役員等の責任を負うのが面倒だから	66	11.2%
近所づきあいがわずらわしいから	29	4.9%
自治会活動は必要性がないから	26	4.4%

4-2. 自治会やボランティア・NPO活動への参加意向

～ 回答者の約4割が今後参加してみたいと考えている ～



（平成26年度）

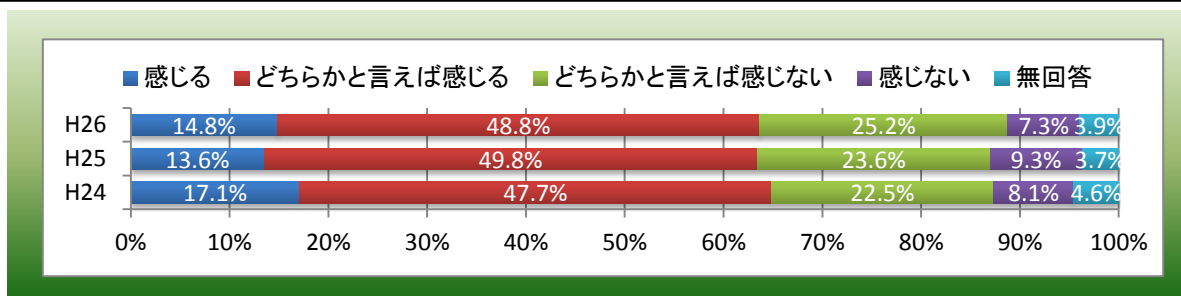
区分	実数	割合
地域活動	112	17.4%
スポーツ	87	13.5%
防犯・防災・交通安全	73	11.3%
まちづくり	69	10.7%
福祉	65	10.1%
子ども健全育成	60	9.3%
保健・医療	61	9.5%
文化芸術	43	6.7%
国際交流・国内交流	38	5.9%
社会教育	25	3.9%

自治会やボランティア・NPO活動への参加意向を伺ったところ、「参加したい・どちらかと言えば参加したい」の割合は36.7%となり、平成25年度から1.3ポイント減少しました。

「参加したい」、「どちらかと言えば参加したい」と回答した人に、参加したいと考える活動を伺ったところ、1番目「地域活動」（17.4%）、2番目「スポーツ」（13.5%）、3番目「防犯・防災・交通安全」（11.3%）が希望する活動のうち、上位の3つとなりました。

4-3. 男女平等意識

～ 回答者の約6割が男女が平等に活動できていると感じている ～



家庭や地域、職場などで男女が平等に活動できていると感じるか伺ったところ、回答者の約6割が男女平等と「感じる・どちらかと言えば感じる」（63.6%）としています。

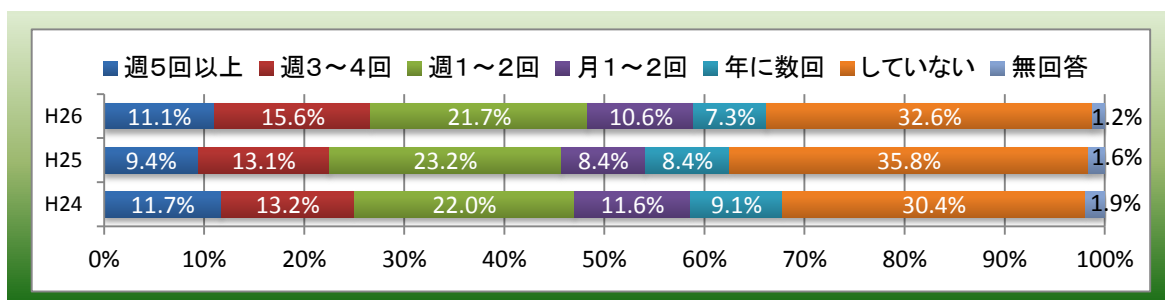
「どちらかと言えば感じない・感じない」（32.5%）とした理由は次のとおりでした。

（平成26年度）

区分	男性が優遇されている		女性が優遇されている		無回答	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
家庭生活で	126	58.9%	39	18.4%	49	22.9%
職場で	155	72.4%	21	9.8%	38	17.8%
地域社会で	126	58.9%	35	16.4%	53	24.8%
社会通念・慣習などで	162	75.7%	19	8.9%	33	15.4%

4-4. 運動やスポーツの頻度

～ 回答者の約5割が週1回以上運動やスポーツを行っている ～



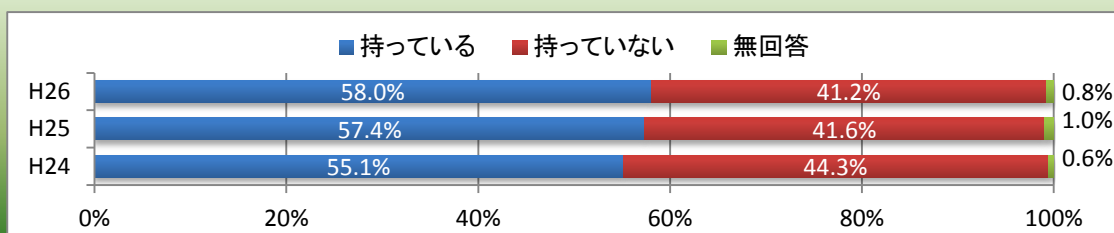
（平成26年度）

区分	実数	割合
仕事や家事で時間がないから	199	32.4%
身近に利用できる施設や場所がないから	83	13.5%
お金がかかるから	72	11.7%
特に理由はない	69	11.2%
一緒にする友達や仲間がないから	51	8.3%
運動やスポーツが好きではないから	42	6.8%
身体が弱いから	30	4.9%
高齢だから	29	4.7%
施設や場所の予約が取れないから	8	1.3%
指導者がいないから	3	0.5%

運動やスポーツを行う頻度について伺ったところ、週1回以上運動やスポーツを行っている方の割合は48.3%となり、平成25年度（45.7%）からプラス2.6ポイントとなりました。「月1～2回」、「年に数回」、「していない」と回答した方に理由を伺ったところ、「仕事や家事で時間がないから」が32.4%で最も割合が高く、ついで「身近に利用できる施設や場所がないから」（13.5%）、「お金がかかるから」（11.7%）の順に高い結果となりました。

4-5. 「かかりつけ医」の有無

～ 回答者の6割が「かかりつけ医」を持っている ～



「かかりつけ医（歯科医を除く）」を持っているか伺ったところ、回答者の5割以上が「持っている」（58.0%）としています。

回答者が「持っていない」（41.2%）を選んだ理由は次のとおりでした。

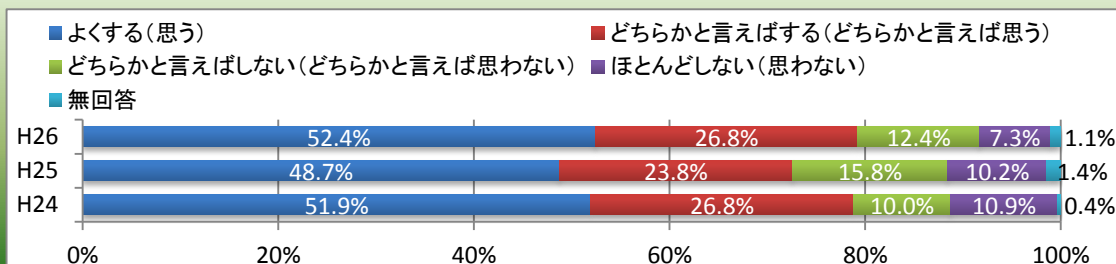
（平成26年度）

区分	実数	割合
病状等でその都度、受診先を決めており、特に決まった医師がいないから	124	30.8%
「かかりつけ医」を必要とする病気になったことがないから	123	30.6%
病気等にかかったらまず病院へ行くようにしているから	70	17.4%
「かかりつけ医」にしたいような診療所がないから	62	15.4%
病気になっても医師の診療は受けたくないから	18	4.5%



4-6. 市内商店での買い物状況（意向）

～ 回答者の約8割が市内の商店で買い物をしている（したいと考えている） ～



市内の商店で買い物をするか（したいと思うか）伺ったところ、約8割の回答者が「よくする（思う）・どちらかと言えばする（どちらかと言えば思う）」と答えています。「どちらかと言えばしない（思わない）・しない（思わない）」と回答した方に、市内の商店で買い物をする（したい）と思うために必要と考えるものを伺ったところ、次のとおりでした。

（平成26年度）

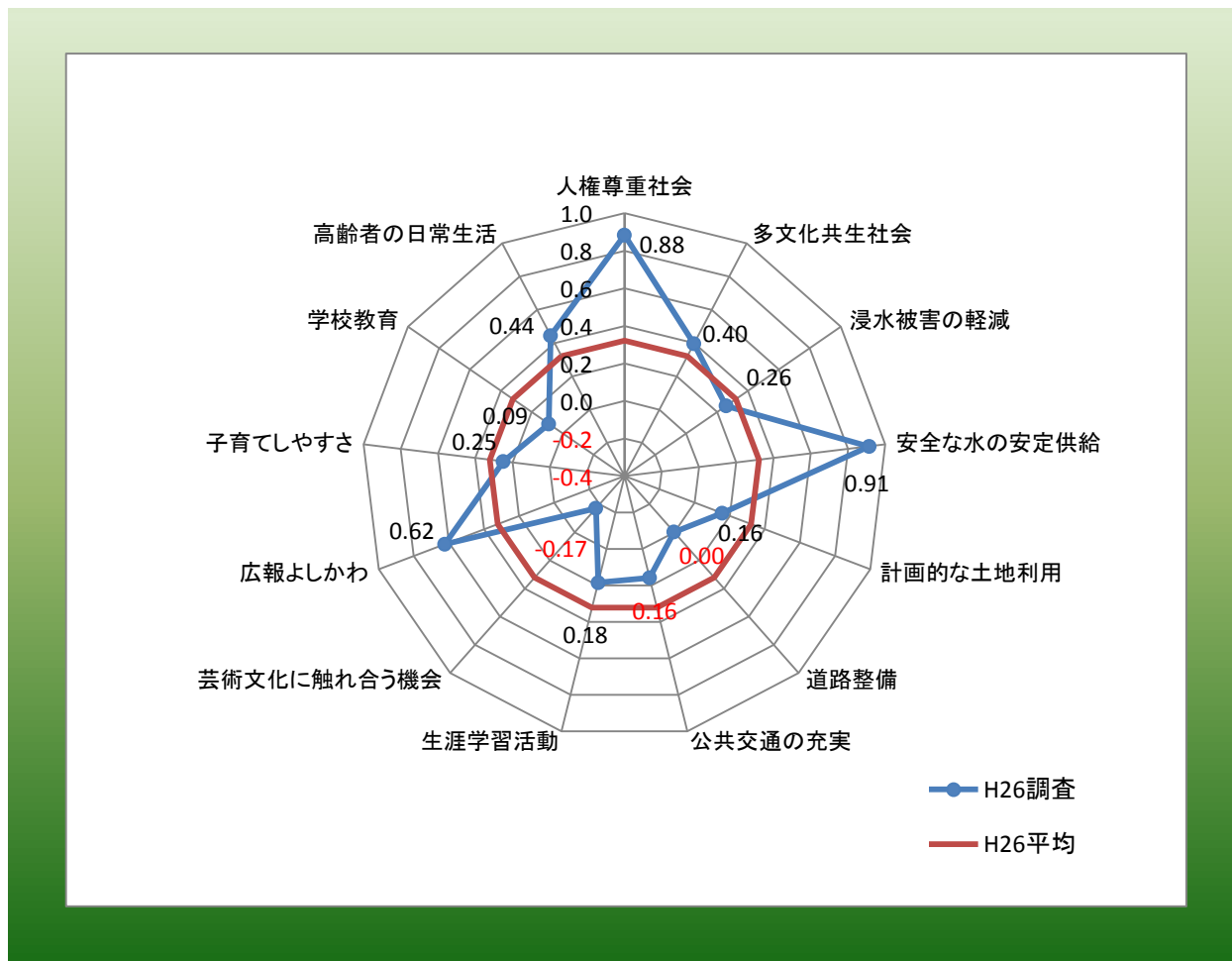
区分	実数	割合
新商品や流行の商品など品揃えが豊富	73	23.5%
駐輪場・駐車場がある	62	20.0%
値段が安い、サービスやポイントなど特典がある	60	19.4%
商店街などまとまった商業エリアがある	56	18.1%
接客態度がよい、店舗が清潔で雰囲気がい	36	11.6%
駅やバス停から近い	16	5.2%

「新商品や流行の商品など品揃えが豊富」（23.5%）、「値段が安い、サービスやポイントなど特典がある」、「駐輪場・駐車場がある」（20.0%）、「値段が安い、サービスやポイントなど特典がある」（18.1%）、が同程度に求められています。

5. 吉川市の取り組みについての満足度

～ 満足度トップ3は「安全な水の安定供給」、「人権尊重社会」、「広報よしかわ」
不満足度トップ3は「芸術文化に触れ合う機会」「道路整備」「学校教育」

～



吉川市の取り組みについての満足度を伺い、その回答を「満足」2ポイント、「どちらかと言えば満足」1ポイント、「どちらかと言えば不満」マイナス1ポイント、「不満」マイナス2ポイントに変換してレーダーチャートを作成しました。

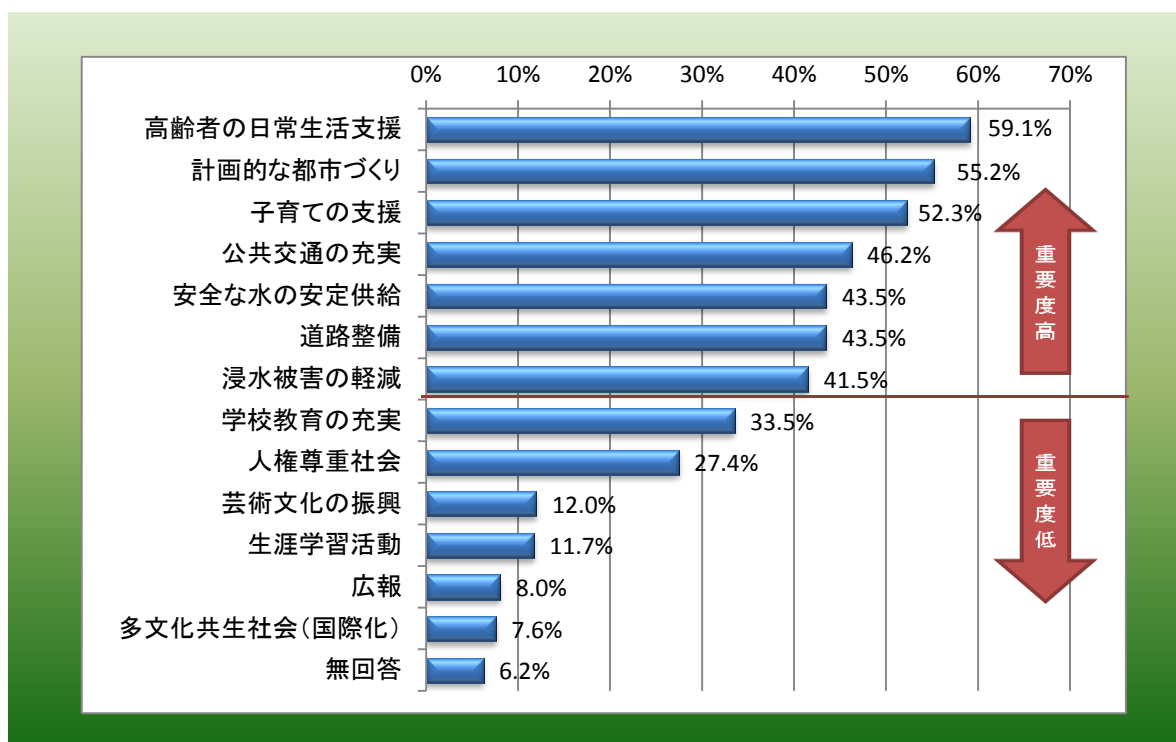
全項目の満足度の平均値プラス0.32ポイントと各項目を比較した結果、高い順から「安全な水の安定供給（0.91）」、「人権尊重社会（0.88）」、「広報よしかわ（0.62）」、「高齢者の日常生活（0.44）」、「多文化共生社会（0.40）」の5項目は、平均値より高い結果となりました。

一方、「芸術文化に触れ合う機会（-0.17）」、「道路整備（0.00）」、「学校教育（0.09）」、「計画的な土地利用（0.16）」、「公共交通の充実（0.16）」、「生涯学習活動（0.19）」、「子育てしやすさ（0.25）」、「浸水被害の軽減（0.26）」の8項目は平均値より低い結果となりました。



6. 市の取り組みについての重要度

～ 市の取り組みについての重要度を伺ったところ、
回答者の6割以上が「高齢者の日常生活支援」が重要であると感じている ～



市の取り組みについて重要だと思うもの5つを伺ったところ、「高齢者の日常生活支援（59.1%）」の割合が最も高く、「計画的な都市づくり（55.2%）」、「子育ての支援（52.3%）」、「公共交通の充実（46.2%）」、「安全な水の安定供給（43.5%）」、「道路整備（43.5%）」の順番で重要な政策であると感じています。

(重要だと思う項目を5つ選択)

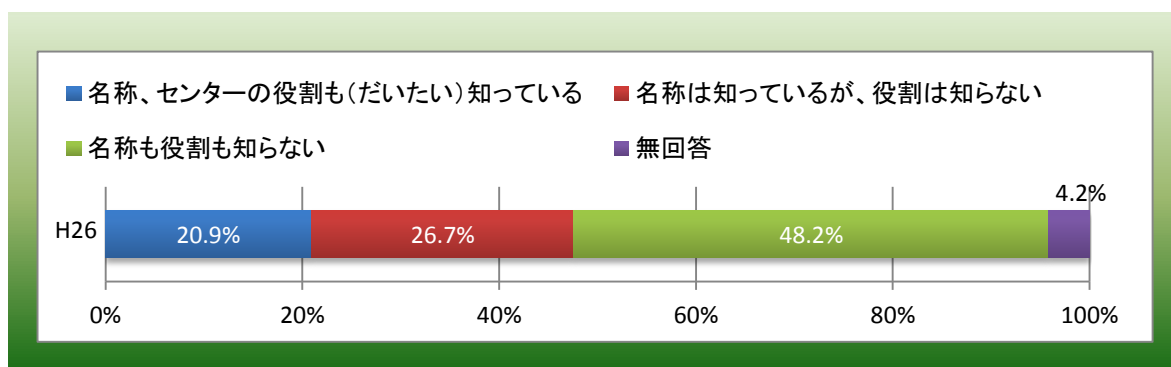
中央値

区分	実数	割合
高齢者の日常生活支援	390	59.1%
計画的な都市づくり	364	55.2%
子育ての支援	345	52.3%
公共交通の充実	305	46.2%
安全な水の安定供給	287	43.5%
道路整備	287	43.5%
浸水被害の軽減	274	41.5%
学校教育の充実	221	33.5%
人権尊重社会	181	27.4%
芸術文化の振興	79	12.0%
生涯学習活動	77	11.7%
広報	53	8.0%
多文化共生社会(国際化)	50	7.6%
無回答	41	6.2%
計	2,954	
中央値	247.5	



7. 消費生活センターの認知度

～ 消費生活センターを知っているか伺ったところ、
回答者の約5割が「名称を知っている」と回答してい



消費生活センターを知っているかを伺ったところ、「名称、センターの役割も(だいたい)知っている(20.9%)」、「名称は知っているが、役割は知らない(26.7%)」、「名称も役割も知らない(48.2%)」という結果でした。

「名称、センターの役割も(だいたい)知っている」、「名称は知っているが、役割は知らない」と回答いただいた方に知ったきっかけを伺ったところ、次のとおりでした。

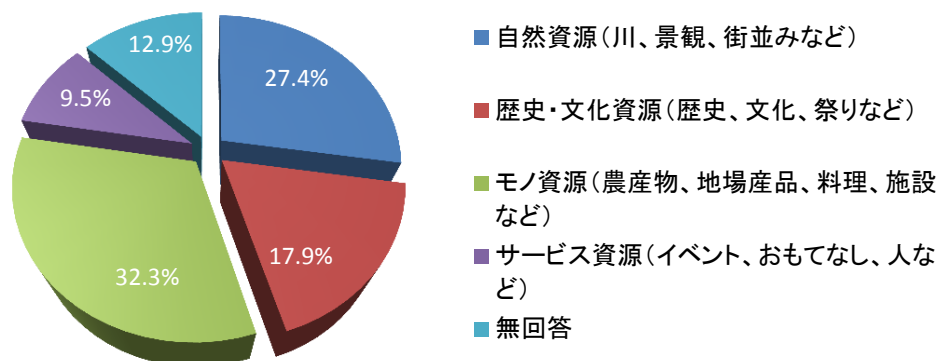
区分	実数	割合
市広報や市ホームページをみた	227	67.6%
チラシをみた	46	13.7%
講座やセミナーに参加した	15	4.5%



8. 観光のPR

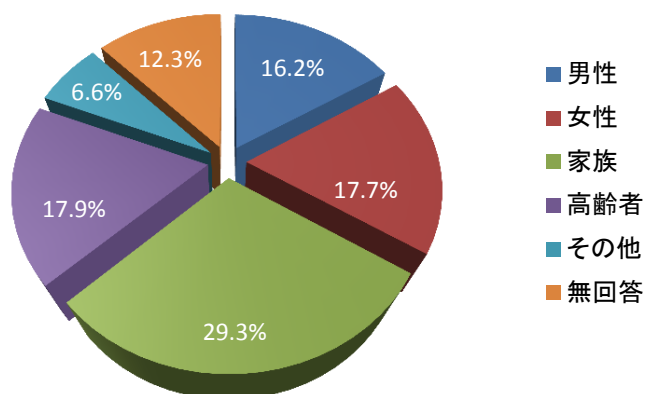
～ 吉川市の観光をPRするために最も適していると思うものを伺ったところ、回答者の約3割以上が「モノ資源」と回答している ～

吉川市の観光をPRするために最も適していると思うもの



吉川市の観光をPRするために最も適していると思うものを伺ったところ、最も多くの方が回答にしているものは「歴史・文化資源(43.4%)」、2番目「自然資源(37.2%)」、3番目「モノ資源(11.5%)」となりました。

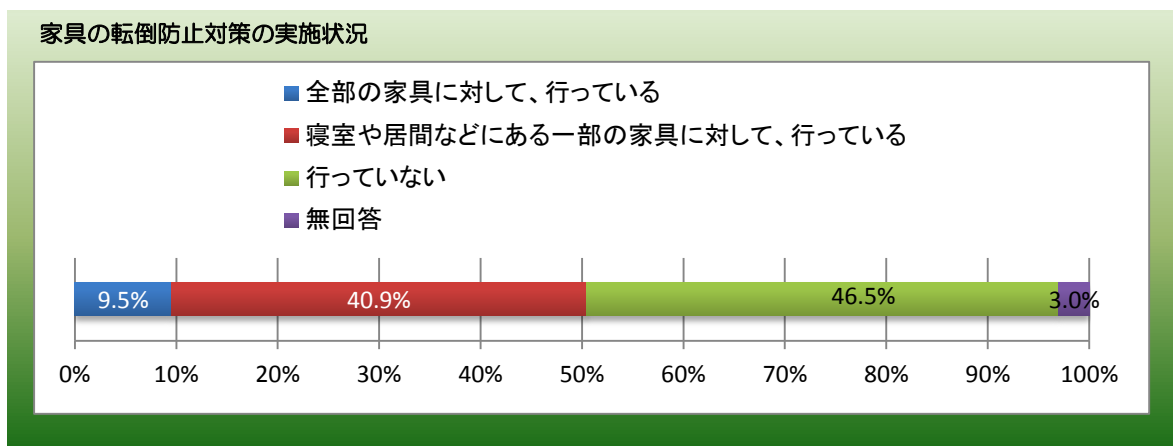
上記で回答したものは、どのような人を対象としているか



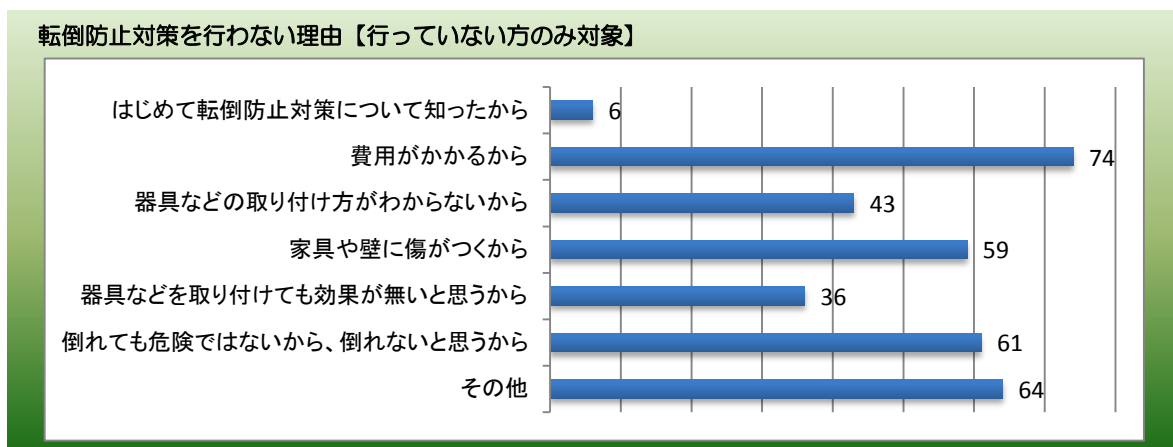
吉川市の観光をPRするための対象について伺ったところ、最も多くの方が回答にしているものは「家族(29.3%)」、2番目「高齢者(17.9%)」、3番目「女性(17.7%)」、4番目「高齢者(17.9%)」となりました。

9. 家具の転倒防止対策

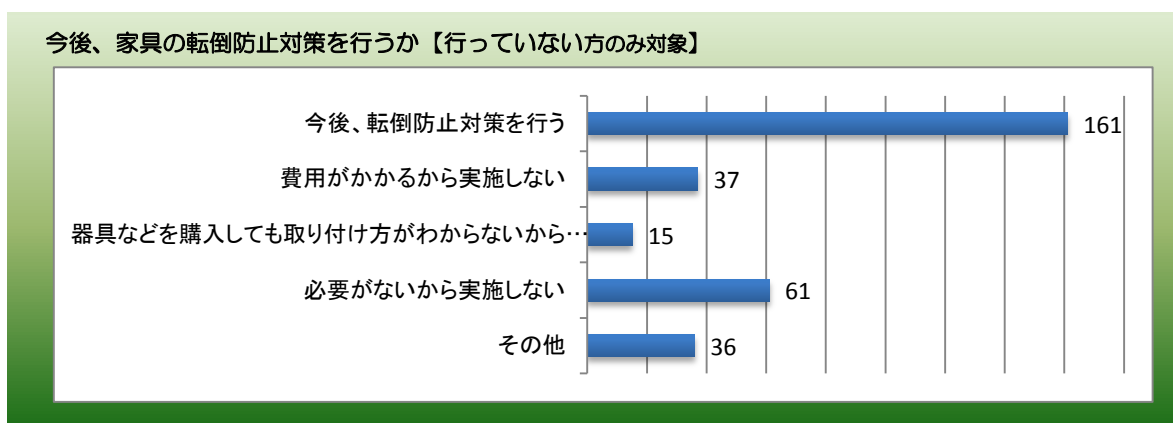
～ 家具の転倒防止対策の実施状況を伺ったところ、
回答者の約5割が「全部または、一部の家具に対して、行っている」と回答している



家具の転倒防止対策の実施状況を伺ったところ、「行っていない（46.5%）」が最も多く、2番目に「寝室や居間などにある一部の家具に対して、行っている（40.3%）」、3番目に「全部の家具に対して、行っている（9.5%）」が多い回答と



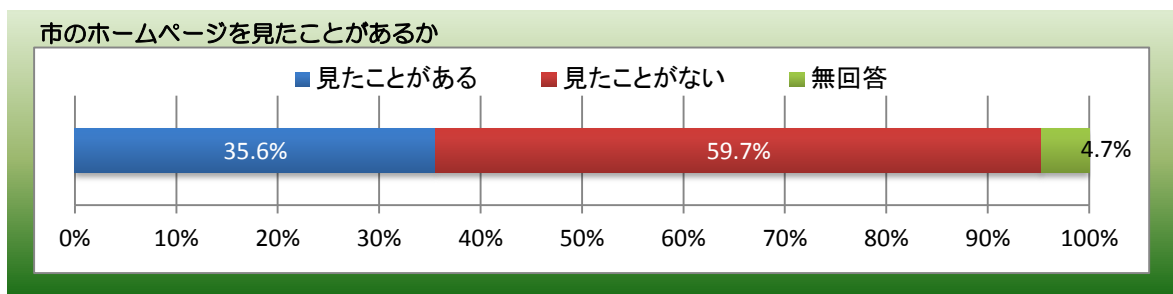
「行っていない」と回答した方に「転倒防止対策を行わない理由」について伺ったところ、「費用がかかるから」74人（18.1%）が最も多い回答となった。「今後、転倒防止対策を行うか」について伺ったところ、次のとおりでした。



「今後、転倒防止対策を行う 161人（24.4%）」が最も多くなりました。

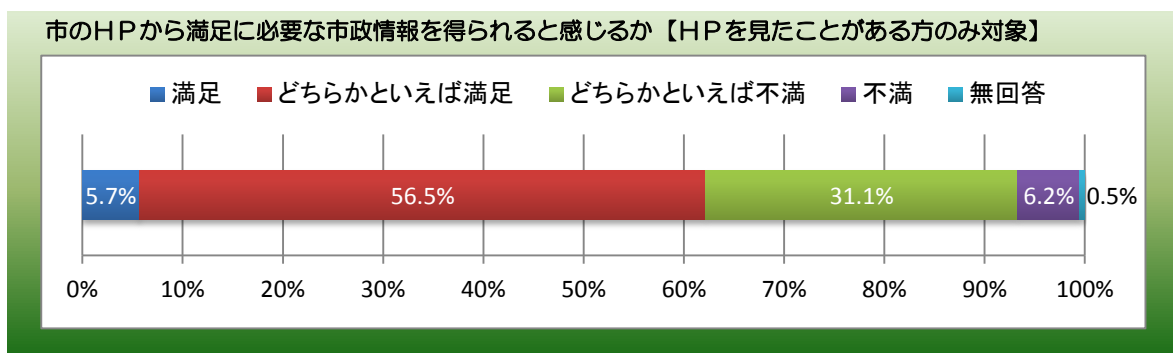
10. 吉川市ホームページの満足度

～ 吉川市ホームページを見たことがある方にホームページの満足度を伺ったところ、回答者の約7割が「満足・どちらかといえば満足」と回答している ～



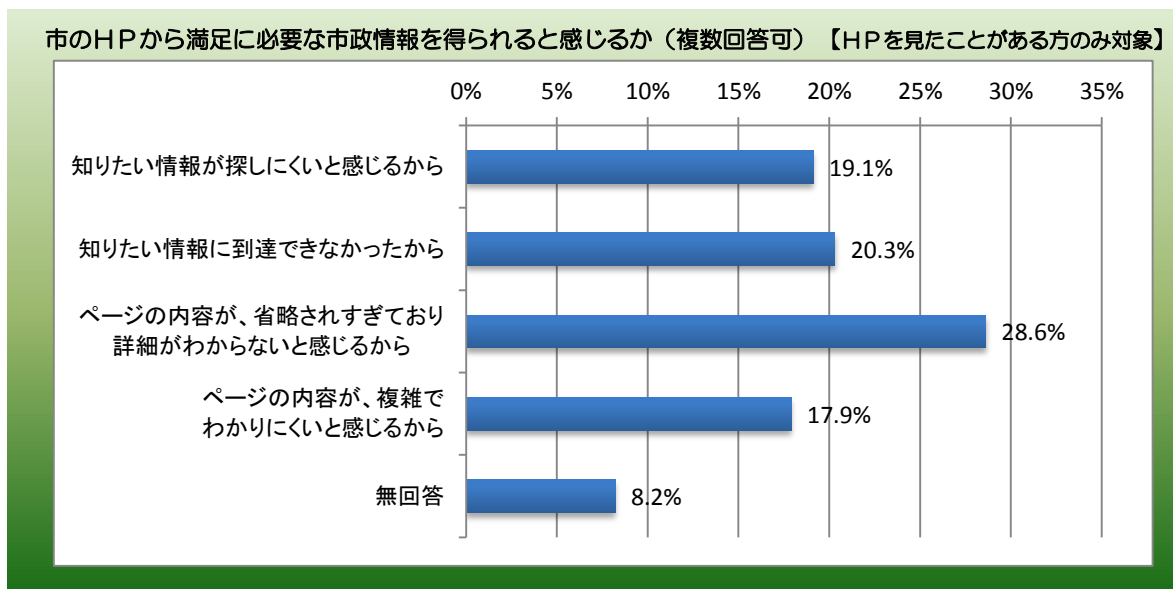
市のホームページを見たことがあるかを伺ったところ、「見たことがある（35.6%）」と回答した方は「見たことがない（59.7%）」を24.1ポイント下回りました。

「見たことがある」と回答した方に「市のHPから満足に必要な市政情報を得られると感じるか」について伺ったところ、次のとおりでした。



市のホームページを見たことがある方に市ホームページから満足に必要な市政情報を得られると感じるか伺ったところ、「満足・どちらかといえば満足」（62.2%）と回答した方は「不満・どちらかといえば不満（37.3%）」を24.9ポイント上回りました。

「不満・どちらかといえば不満」と回答した方に「市のHPに不満を感じる理由」について伺ったところ、次のとおりでした。

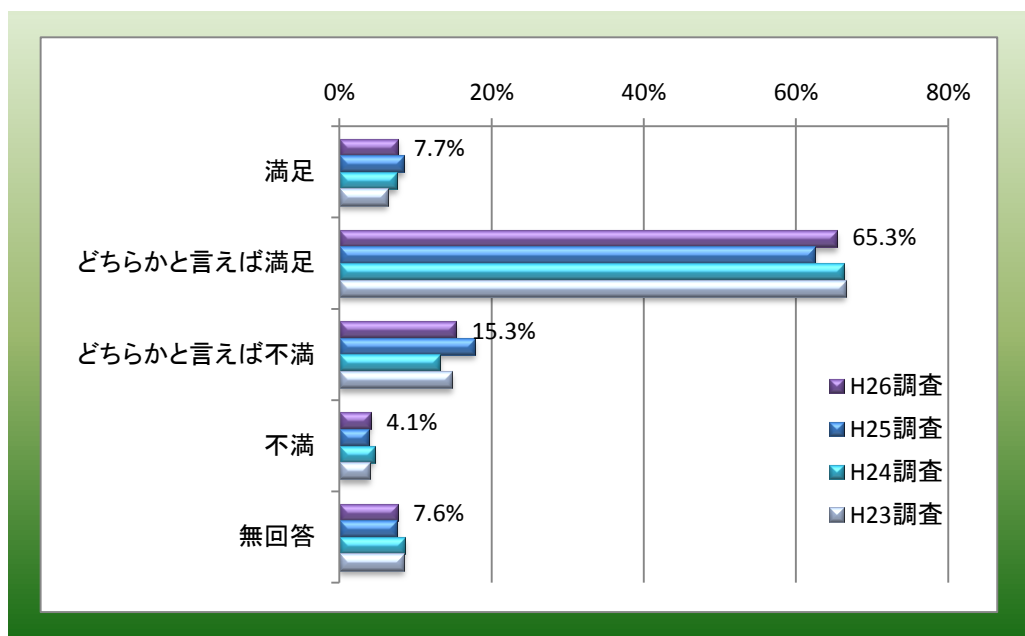


「不満・どちらかといえば不満」と回答した方に市のHPに不満を感じる理由を伺ったところ、「ページの内容が、省略されすぎており詳細がわからないと感じるから（28.6%）」が最も多くなりました。2番目「知りたい情報に到達できなかったから（20.3%）」、3番目「知りたい情報が探しにくいと感じるから（19.1%）」となりました。

11. 吉川市全体の取り組みに対する満足度

～ 回答者の7割以上が市民サービスへの取り組みについて
「満足・どちらかと言えば満足」と感じている ～

吉川市全体の取り組みに対する満足度を伺ったところ、「満足」（7.7%）、「どちらかと言えば満足」（65.3%）、「どちらかと言えば不満」（15.3%）、「不満」（4.1%）となり、「満足・どちらかと言えば満足」（73.0%）は前回調査（70.8%）と比較して、2.2ポイントの増加となっています。



区分	実数	割合			
	H26調査	H26調査	H25調査	H24調査	H23調査
満足	51	7.7%	8.4%	7.5%	6.3%
やや満足	431	65.3%	62.4%	66.2%	66.5%
やや不満	101	15.3%	17.8%	13.1%	14.8%
不満	27	4.1%	3.8%	4.6%	4.0%
無回答	50	7.6%	7.5%	8.6%	8.5%
母数	660	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

この概要版は、平成26年度市民意識調査報告書に掲載した内容の一部を記載したものです。

発行月 平成27年3月
 発行 吉川市政策室
 〒342-8501 吉川市吉川二丁目1番地1
 048-982-9445（直通）